



【TPP参加問題】勢いづく民主慎重派 執行部、説得を怠ったツケが露呈

2011.11.10 22:45

野田佳彦首相が10日、環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) 交渉の参加表明を先送りしたことにより、民主党の慎重派は勢いづいた。9日夜にまとめた党のプロジェクトチーム (PT、鉢呂吉雄座長) の提言を「慎重に判断」することを求める内容に修正させたことが功を奏したからだ。これが前例となれば「消費税率10%」などは望むべくもない。首相が掲げてきた「党内融和」の看板は完全に傾いた。(今堀守通)

10日午後5時から国会内で開かれた「TPPを慎重に考える会」役員会。「首相の記者会見延期」の一報に歓喜の声が上がり「首相は急に腹痛でも起こしたんじゃないか!?!」と軽口まで飛び出した。

「党の提言内容を踏まえれば、ここで交渉参加は誰が考えても絶対できない。首相が記者会見を延期にしたのは当然だ!」

会長の山田正彦元農水相は記者団にこう息巻き、原口一博元総務相は「首相が間違った発表をしたら審議が滞る」と言い放った。

慎重派は必ずしも党内の主流ではなかった。それでも党のPTで徹底して反対論を唱え、ときには離党カードをちらつかせて抵抗。執行部主導でまとめようとした提言案も2日にわたって修正を求め、最終的には慎重論が党内の「主流意見」として採用させた。

それでも10日昼の「慎重に考える会」の役員会で出席者は沈痛な面持ちだった。「首相が交渉参加を表明すれば離党を考えなければ」という声も上がった。

それだけに「先送り」は慎重派を勢いづかせた。

すでに交渉参加表明に反対する衆院決議案は、自民、公明両党などと共同で提出している。11日には首相の記者会見前に党両院議員総会開催を求める署名活動を展開する構え。「首相からTPPに参加したい理由を聞いたことがない」からだというのが、「いざとなれば緊急動議を出してもいいぞ」という無言の圧力を狙っているに違いない。

逆に「離党するほど度胸はない」とタカをくくっていた党執行部は10日になって慌てた。

慎重派が出した国会決議案の衆院本会議への上程を阻止するため、衆院議院運営委員会で慎重派の相原史乃、太田和美的両委員を急遽(きゅうきょ)推進派に差し替えた。

樽床伸二幹事長代行は会合中に、慎重派の一人から「けっこうやばいっすよ。山田さんが...」と耳打ちされ、動転した表情でこう叫んだ。「そういうことは早う言えや!」

輿石東幹事長は10日夕、山田氏にひそかに「一日延ばしたからな」と伝えた。

離党騒ぎを沈静化するため「猶予期間」を与えたのか。それとも作戦を練り直す時間が必要だったのか。その真意は分からない。